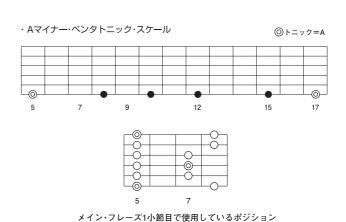


ペンタトニック・スケールの 基本ポジションを覚えよう!

ロックと言えばペンタトニック!"と断言で きるほど、ペンタはギタリストにとって重要な スケールだ。ペンタは5音で構成された音階 で、一般的に最もよく知られている (使用され ている)のは"マイナー・ペンタトニック・スケー ル"になる(ただし、コードやキーの設定によ り、さまざまな解釈があるので注意してもら いたい)。メイン・フレーズの1小節目がAマイ ナー・ペンタの代表ブロック・ポジション【註】に なるが (図1)、このフレーズでは1小節ごとに ポジションが1フレット分上がっていくので注 意しよう。事前にポジションを頭に入れて、最 後までフィンガリングが崩れないように気をつ けて演奏してみてほしい。

図1 ペンタトニック・スケールのポジション

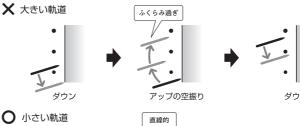




無駄な動きが多くないか? 空振りは直線的な軌道にせよ

このメイン・フレーズでは、ハンマリングとプ リング時に空振りを行なう。空振りを入れると 右手の振り(オルタネイト)が一定になるので、 リズムを正確に取ることができるのだ (詳しく はP.18ウェブ対応の詳細解説を参照)。空振 りには当然ダウンとアップの2種類があるが、 特にアップの空振りは慣れていないと軌道が大 きくなって、動きに無駄が増えやすいので注意 しよう(図2)。メイン・フレーズの1小節目1拍 目などでは、1弦をダウン・ピッキングしたら、 次の2弦をダウンで弾くことを見越して、2弦 を跳び越えるように直線的な軌道でアップの 空振りを行なうと良い。このように空振りを入 れる際に最短の軌道を通ることを意識すると、 ピッキングの高速化を図ることができるだろう。

図2 アップの空振り軌道









教官の戯れ言

フィンガリング・フォームは、大きく分けて2 種類ある(写真①&②)。1つ目は、親指で ネックをしっかり握り込む "ロック・フォーム"。 これは、チョーキングやビブラートを掛けやす いので、ブルース・プレイを基調としたギタリス トが使うことが多いようだ。2つ目は、親指を ネック裏に軽く添える"クラシック・フォーム"。 前者に比べて、指をストレッチさせやすいので、 音を機械的に詰め込んだフレーズに向いてい ると言われている。どちらもメリット&デメリッ トがあるので、フレーズ内容に合わせて使い 分けられるようになってもらいたい。

フレーズ内容に併せて 2つのフォームを使い分けるべし!



ザック・ワイルドなどが用いるフォーム。 親指を使ってネッ クをしっかりと握り込もう。 低音弦のミュートもしやすい。



親指をネック裏に置くことで、指が開きやすくなる。ダグ・